

ミャンマー中部の鮮新統から発見された骨化石密集層

西岡佑一郎*・高井正成**

*早稲田大学高等研究所・**京都大学霊長類研究所

A bone bed from the Pliocene of Central Myanmar

Yuichiro Nishioka* and Masanaru Takai**

*Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University, 1-6-1 Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, 169-8050 Japan (nishioka@aoni.waseda.jp);

**Primate Research Institute, Kyoto University, Inuyama, 484-8506 Japan

ミャンマー中部には哺乳類など脊椎動物化石を含む新第三系イラワジ堆積層が分布している。イラワジ堆積層は河川成堆積物で、サルやネズミのような有蹄類以外の化石はほとんど見つかっていなかったが、近年、グウェビン地域の上部鮮新統からこれらの哺乳類を含む脊椎動物化石が密集して発見された。化石密集層は層厚1m弱の黒色シルト層で、上部が石灰質砂岩層で覆われている。とりわけ齧歯類とオナガザル科コロブス亜科の *Semnopithecus gwebinensis* が多産しており、グウェビン地域内では同様の化石密集層が点在していることがわかった (Nishioka *et al.*, 2015; Takai *et al.*, 2016)。各地点からは哺乳類以外にも爬虫類 (ワニ, カメ)、淡水性魚類などが見つかっており、東南アジア大陸部の後期鮮新

世脊椎動物相を明らかにできる重要な化石産地である。

文献

Nishioka, Y., Takai, M., Nishimura, T., Thaung-Htike, Zin-Maung-Maung-Thein, Egi, N., Tsubamoto, T. and Maung-Maung, 2015. Late Pliocene rodents from the Irrawaddy sediments of central Myanmar and their palaeogeographical significance. *Journal of Systematic Palaeontology*, **13**, 287–314.

Takai, M., Nishioka, Y., Thaung-Htike, Maung, M., Khaing, K., Zin-Maung-Maung-Thein, Tsubamoto, T. and Egi, N., 2016. Late Pliocene *Semnopithecus* fossils from central Myanmar: Rethinking of the evolutionary history of cercopithecoid monkeys in Southeast Asia. *Historical Biology*, **28**, 172–188.

(2016年8月5日受付, 2016年12月7日受理)



図1. ミャンマー中部グウェビン地域のイラワジ堆積層。表層は第四紀の河川成段丘堆積物 (赤土) で覆われている。



図2. 脊椎動物化石が密集して見つかった産地（矢印で示した地点に化石密集層が分布）.



図3. 脊椎動物化石を多く含む黒色のシルト層（東側断面）と直上の石灰質砂岩層.



図4. 化石密集層から小型化石を採取している様子.